

## 問7 【解答エ】

事業戦略を“市場浸透”，“新製品開発”，“市場開拓”，“多角化”の四つに分類した戦略モデルを，アンゾフの成長マトリクスという。

		市場・顧客	
		新規	既存
事業・製品	新規	多角化	新製品開発
	既存	市場開拓	市場浸透

・市場浸透

：既存市場・顧客に対して，既存事業・製品で事業拡大を図る戦略である。 … エ（正解）

・新製品開発

：既存市場・顧客に対して，新規事業・製品で事業拡大を図る戦略である。 … イ

・市場開拓

：新規市場・顧客に対して，既存事業・製品で事業拡大を図る戦略である。 … ウ

・多角化

：新規市場・顧客に対して，新規事業・製品で事業拡大を図る戦略である。 … ア

## 4.2 経営戦略(4)

ビジネス戦略

## 問1 【解答エ】

ビジネス戦略を策定し，実行するための一般的な手順は，以下のとおりである。

- ①ビジョンの設定 (d) : 企業のあるべき姿 (方向性) を明確にする。
  - ②ビジネス環境の分析 (b) : 市場における自社の地位や消費者のニーズ，競合他社との関係などを明確にする。
  - ③ビジネス戦略の立案 (c) : 目標を定め，業務レベルでの具体的な戦略を明確にする。
  - ④重要成功要因の抽出 (a) : 目標達成に対し，決定的な影響を与える要因であるCSF（重要成功要因）を明確にする。  
：目標を達成するための具体的な実行計画を立案する。
- したがって，ビジネス戦略を策定し実行するための手順は「d, b, c, a」となる。ただし，重要成功要因を抽出してから具体的な戦略を立案する場合もあり，その場合は“d, b, a, c”の順になる。

## 問2 【解答イ】

・ニーズ・ウォンツ分析

：消費者のニーズ（ない）と因る，必要不可欠なもの）と，ウォンツ（なくても困らないが，あればいいもの）を調査・分析する手法である。

・バリューエンジニアリング (VE: Value Engineering)

：製品やサービスの価値を分析し，体系化された手順によって最小のコストで価値の向上を図る戦略（手法・活動）である。（正解）

・バリュチェーン

：企業活動を主活動と支援活動に分け，企業が提供する製品やサービスの付加価値が，企業活動のどの部分で生み出されているかを分析し，競争優位となるように企業活動を相互に結びつけるという考え方である。

・ポジショニング分析

：自社製品・サービスなどの市場での相対的な位置を調査・分析する手法である。

問3 【解答ウ】

バランスコアカード (BSC: Balanced ScoreCard) は、広い範囲の評価基準を設定し、顧客の満足度、従業員のやる気など、評価の難しいものを明確にすることを目指す評価手法である。“財務の視点 (過去)”，“顧客の視点 (外部)”，“業務プロセスの視点 (内部)”，“学習と成長の視点 (将来)” を用いて評価を行う。

ア：“財務の視点”の戦略目標に該当する。

イ：“顧客の視点”の戦略目標に該当する。

ウ：“学習と成長の視点”の戦略目標に該当する。(正解)

エ：“業務プロセスの視点”の戦略目標に該当する。

問4 【解答イ】

バリュエンジニアリング (VE: Value Engineering) は、製品やサービスの価値を分析し、体系化された手順によって最小のコストで価値の向上を図る戦略 (手法・活動) である。バリュエンジニアリングの観点での総コストとは、「消費者が製品を購入してから、使用し廃棄するまでに要する費用」である。

問5 【解答ウ】

[総合評価の方法] に従って総合評価の評点を求める手順は、次のようになる。

① 戦略項目ごとの評価方法・基準によって評点を求める。

- ・売上高増加率：実績が2.4% → 110点
- ・新製品開発件数：実績が1件 → 100点
- ・顧客満足度：実績が目標と同じ4ランク → 0点

② ①の評点に重み付けしたものを合計して、総合評価の評点を求める。

- ・売上高増加率：110点×0.5＝55点
- ・新製品開発件数：100点×0.3＝30点
- ・顧客満足度：0点×0.2＝0点
- ・総合評価の評点： 合計「85」点

4.2 経営戦略 (5)

技術開発戦略

問1 【解答ア】

MOT (Management Of Technology ; 技術経営) とは、技術を中心に事業を展開する企業が、技術開発に投資してイノベーション (革新) を促進し、事業を持続的に発展させていくという考え方の経営である。

イ：特許戦略に関する説明である。

ウ：ベンチャーキャピタルに関する説明である。

エ：リーナススタートアップに関する説明である。

## 問2 【解答ウ】

・MOT (Management Of Technology ; 技術経営)

：技術開発の成果によって事業利益を獲得することを目的とした経営手法のことである。

・デザイン思考

：ビジネス上の課題に対し、デザイナーがデザインを行う際の思考プロセス（デザイナー的思考）を転用して問題解決を図る手法のことである。

・ハッカソン

：広い意味でのソフトウェアのエンジニアリングを指すハック（Hack）とマラソン（Marathon）を組み合わせたIT業界発の造語である。プログラマやデザイナーなどのチームが、数時間～数日間の短期間にテーマに沿ったアプリケーションやサービスを開発し、その成果を競い合うイベントのことである。オープンイノベーションの方法の一つとして注目されている。  
（正解）

・ビジネスモデルキャンバス

：ビジネスモデルを確立するのに必要な要素を、主要提携先・主要活動・主要経営資源（組織体制グループ）、価値提案・顧客関係・対象顧客・チャネル（マーケティンググループ）、収益の流れ・コスト構造（収益・コストグループ）の九つに分類し、それらを視覚化するフレームワークのことである。

## 問3 【解答イ】

・シナリオライティング

：技術の発展など、将来の予測をシナリオ形式でまとめる予測手法である。

・デルファイ法

：複数の専門家や有識者による意見収集と集約された意見のフィードバックを繰り返して、将来の技術動向・製品動向などを予測する手法である。（正解）

・ブレインストーミング

：解決したい問題や実現したいことに関する意見やアイデアを、数多く収集するための手法である。“批判禁止”，“自由奔放”，“質より量”，“便乗歓迎”のルールで実施される。

・ロールプレイング

：実際の業務に似た状況を設定して、擬似体験により研修する教育訓練である。

## 問4 【解答ウ】

・A&D (Acquisition and Development ; 買収と開発)

：他社で研究／開発された成果や技術、または技術をもつ企業自体を買収する活動である。

・M&A (Mergers and Acquisitions)

：企業の合併・買収、株式取得、事業譲渡などにより他社を吸収・支配する、最も強いアライアンスである。

・R&D (Research and Development ; 研究と開発)

：技術開発戦略に沿って、“技術の基礎研究”，“事業に適用する応用研究”，“製品への活用（製品開発）”の順に進めることで、自社の技術的優位性を高める技術開発戦略の実行プロセスである。（正解）

・T&M (Time and Material ; 時間と資材)

：時間と資材に設定した単価と、実際の作業時間や資材量の乗算結果を、請求金額とする契約方法である。

## 問5 【解答エ】

ア：技術ロードマップは、将来的な技術発展の道筋を表し、技術や製品の研究開発の指針として利用するものである。

イ：経済産業省が、我が国の技術戦略を“技術戦略マップ”として公表している。

ウ：市場動向などにより、技術が陳腐化する可能性もある中で、技術ロードマップは常に見直しを行う必要がある。

エ：研究者や技術者に限らず、政府、産業界、大学などの関係者、利用者など多くの人々に対して技術の将来像などを示すため、誰にでもわかりやすいようにまとめるべきである。(正解)

## 問6 【解答エ】

オープンイノベーションは、異企業間の共同研究、産学連携などのように、組織内の知識・技術と組織外のアイデアを結合し新たな価値を創造しようとするものである。組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図ることを目的としている。

ア：プロセスイノベーションの説明である。

イ：イノベーションのジレンマの説明である。

ウ：プロダクトイノベーションの説明である。

## 問7 【解答イ】

技術開発戦略は、市場での将来の競争力を確保するために、技術動向や製品動向の調査・分析結果を基に自社の技術力を評価して立案する。  
立案作業の順番は、次のとおりである。

- ① 経営戦略に関連する社内外の技術の抽出  
↓
- ② 「技術と環境の変化の予測」(a)  
↓
- ③ 競争優位の構築に役立つ技術の見極め  
↓
- ④ 自社技術力の評価と強化分野の選定  
↓
- ⑤ 開発の優先順位決定と開発ロードマップの作成

## 4.2 経営戦略(6)

経営管理システム

### 問1 【解答ア】

ERP (Enterprise Resource Planning ; 企業資源計画) は、「経営資源 (ヒト、モノ、カネ、情報) の有効活用の観点から企業活動全般を統合的に管理し、業務を横断的に連携させることによって経営資源の最適化と経営の効率化を図る」考え方である。

イ：BPR (Business Process Reengineering ; ビジネスプロセスリエンジニアリング) に関する説明である。

ウ：CRM (Customer Relationship Management ; 顧客関係管理) に関する説明である。

エ：ナレッジマネジメント (KM : Knowledge Management) に関する説明である。

**問2 【解答ア】**

バリエーションとは、企業の事業活動を、主活動（購買物流、製造オペレーション、出荷物流、販売・マーケティング、サービス）と、支援活動（調達活動、技術開発、人事・労務管理、全般管理（インフラストラクチャ））に分類し、それらにマージンを加えて価値（Value）の連鎖（Chain）として捉える考え方である。つまり、「企業が提供する製品やサービスの付加価値が事業活動のどの部分で生み出されているかを分析するための考え方である。」

イ：コアコンピタンスの説明である。

ウ：プロダクトライフサイクルの説明である。

エ：PPM (Product Portfolio Management；プロダクトポートフォリオマネジメント) の説明である。

**問3 【解答イ】**

TQC (Total Quality Control；全社的品質管理) とは、製品の企画から製造、販売、アフターサービスまで企業全体で品質管理を徹底するという、全社的な取り組みのことである。

ア：TCO (Total Cost of Ownership；総所有コスト) に関する説明である。

ウ：KGI (Key Goal Indicator；重要目標達成指標) に関する説明である。

エ：KPI (Key Performance Indicator；重要業績評価指数) に関する説明である。

**問4 【解答ウ】**

SCM (Supply Chain Management；供給連鎖管理) は、原材料・部品の調達から製品の製造、流通、販売に至るまでの商品供給の流れを“供給の鎖（サプライチェーン）”として捉え、サプライチェーンに関わる部門や企業がお互いに情報を共有・管理することで、ビジネスプロセス全体を最適化する手法である。SCMを導入することによって、「顧客の要求に合わせてタイムリーに商品を供給できる」効果が期待できる。

ア：会計／経理システムの導入効果である。

イ：SFA (Sales Force Automation；営業支援システム) の導入効果である。

エ：CRM (Customer Relationship Management；顧客関係管理) の導入効果である。

**問5 【解答ア】**

CRM (Customer Relationship Management；顧客関係管理) で行うことは、「顧客情報を一元管理し、顧客との良好な関係を構築・維持する」ことである。顧客に関する情報を収集・分析し、長期的視点から顧客と良好な関係を築いて自社に囲い込み、収益の拡大を図る。

イ：FA (Factory Automation；自動化工場) で行うことである。

ウ：POS (Point Of Sales；販売時点情報管理) システムで行うことである。

エ：MRP (Material Requirements Planning；資材所要量計画) で行うことである。

**問6 【解答エ】**

・ERP (Enterprise Resource Planning；企業資源計画)

：経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）の有効活用の観点から、企業活動全般を統合的に管理することによって、経営資源の最適化と経営の効率化を図る考え方である。

・SFA (Sales Force Automation；営業支援)

：営業活動を効果的に行い、生産性を上げるための支援活動である。顧客情報を一元管理するCRM機能、営業プロセスを標準化するSPM (Sales Process Management) 機能、スケジュール管理を行うTM (Time Management) 機能、提案事例／商談情報／商品情報などを蓄積・管理するKM (Knowledge Management) 機能などがある。

・ サプライチェーンマネジメント (SCM: Supply Chain Management; 供給連鎖管理)

： 原材料・部品の調達から製造、流通、販売に至るまでの商品供給の流れを“供給の鎖 (サプライチェーン)”として捉え、サプライチェーンに関わる部門や企業がお互いに情報を共有・管理することで、ビジネスプロセス全体を最適化する手法である。

・ ナレッジマネジメント (KM: Knowledge Management)

： 従業員がビジネス活動から得た知識・ノウハウや、従業員の創造性、行動能力、知恵などを知識データベースとして蓄積し、企業全体の経営資源として活用する手法である。(正解)

## 問 7 【解答エ】

クロスセリングとは、顧客のニーズに関連する商品も同時に推奨していく手法である。顧客がすでに利用・購入している、あるいはこれから利用・購入する商品やサービスに関連する商品を薦めて、販売促進することである。したがって、「スキー板を購入した顧客にスキーウェアの購入を薦める」ことが、クロスセリングの事例として適切である。

なお、ア、イ、ウの事例は、顧客が利用・購入しようとしている商品やサービスより、より付加価値の高い商品を薦めて販売促進をするアップセリングの事例である。

## 4.2 経営戦略 (7)

ビジネスシステム

### 問 1 【解答ウ】

・ ETC (Electronic Toll Collection; 自動料金収受システム)

： 有料道路の料金所の専用ゲートを通してときに、無線通信によって料金収受を行うシステムである。

・ GPS (Global Positioning System; 全球測位システム)

： 軍事用人工衛星の全球測位システムで、現在では民間に開放され、航空機・船舶などの航行支援やカーナビゲーションに利用されている。

・ POS (Point Of Sales; 販売時点情報管理)

： 商品の販売情報を管理するシステムである。コンビニエンスストアなどのレジで商品のバーコードを読み取り、商品売上データの収集と価格・計算を行って、レシートを発行する。商品の売上管理だけではなく、販売動向も把握できる。(正解)

・ SCM (Supply Chain Management; 供給連鎖管理)

： 原材料・部品の調達から製品の製造、流通、販売に至るまでの商品供給の流れを“供給の鎖 (サプライチェーン)”として捉え、サプライチェーンに関わる部門や企業がお互いに情報を共有・管理することで、ビジネスプロセス全体を最適化する手法である。

### 問 2 【解答エ】

・ MRP (Material Requirements Planning; 資材所要量計画)

： 原材料から完成品までの資材の流れや所要量を計画・管理するシステムである。

・ POS (Point Of Sales; 販売時点情報管理)

： 商品の販売情報を管理するシステムである。コンビニエンスストアなどのレジで商品のバーコードを読み取り、商品売上データの収集と価格・計算を行って、レシートを発行する。商品の売上管理だけではなく、販売動向も把握できる。

・SCM (Supply Chain Management; 供給連鎖管理)

：原材料・部品の調達から製品の製造、流通、販売に至るまでの商品供給の流れを“供給の鎖(サプライチェーン)”として捉え、サプライチェーンに関わる部門や企業がお互いに情報を共有・管理することで、ビジネスプロセス全体を最適化する手法である。

・SFA (Sales Force Automation; 営業支援システム)

：営業活動を効果的にを行い、生産性を上げるための支援システムである。顧客情報を一元管理するCRM (Customer Relationship Management) 機能、営業プロセスを標準化するSPM (Sales Process Management) 機能、スケジュール管理を行うTM (Time Management) 機能、提案事例／商談情報／商品情報などを蓄積・管理するKM (Knowledge Management) 機能などがある。(正解)

### 問3 【解答ウ】

RFID (Radio Frequency Identification) は、電波を利用した非接触型自動認識技術のことである。ICタグと呼ばれるアンテナ付きICチップを利用して、情報をやり取りする。RFIDは、製品の生産から流通までを追跡するトレーサビリティシステムや、商品管理、建物の入退管理、及び電車の定期券や電子マネーなどの非接触型ICカードなどに応用されている。

ア：ワイヤレス給電の活用事例である。

イ：チャットボットの活用事例である。

エ：自動運転技術の活用事例である。

### 問4 【解答ア】

スマートグリッドは、「コンピュータ内蔵の電力制御装置をネットワークで結ぶことで、自立的な電力需給制御を可能にした電力ネットワークである。」スマートグリッドには、省エネルギー、低コスト、高信頼性といった効果が期待されている。

イ：スマートフォンに関する説明である。

ウ：グリッドコンピュータに関する説明である。

エ：スマートカード (ICカード) に関する説明である。

### 問5 【解答ア】

SFA (Sales Force Automation; 営業支援システム) は、営業活動を効果的に行い、生産性を上げるための支援システムである。そのため、SFAシステムの運用においては「顧客への訪問回数、商談進捗状況、取引状況などの情報」などの営業活動関連情報を管理する。

イ：人事評価システムにおいて管理すべき情報である。

ウ：POS (Point Of Sales; 販売時点情報管理) システムにおいて管理すべき情報である。

エ：MRP (Material Requirements Planning; 資材所要量計画) システムの管理情報である。

### 問6 【解答ウ】

人間中心のAI社会原則には、“人間中心の原則”、“教育・リテラシーの原則”、“プライバシー確保の原則”、“セキュリティ確保の原則”、“公正競争確保の原則”、“公平性、説明責任及び透明性の原則”、“イノベーションの原則”がある。

・公平性、説明責任及び透明性の原則

：AIの利用によって、人々が不当な差別や扱いを受けることがないように、公平性・透明性のある意思決定とその結果に対する説明責任の適切な確保、及び技術に対する信頼性の担保が必要であるとする原則である。

・セキュリティ確保の原則

：社会は、常にベネフィット（利益）とリスクのバランスに留意し、全体として社会の安全性及び持続可能性が向上するように努めなければならないとする原則である。

・人間中心の原則

：AIの利用は、憲法及び国際的な規範の保障する基本的人権を侵すものであってはならないという原則である。（正解）

・プライバシー確保の原則

：本人の望まない形でパーソナルデータの流通や利用によって、個人が不利益を受けることのないように、各ステークホルダはパーソナルデータを扱わなければならないという原則である。

問 7 【解答ア】

デジタルツインは、IoT (Internet of Things)、AI (Artificial Intelligence) などの様々な技術で収集したデータを用いて、現実世界と同じ環境を仮想空間に再現する技術である。デジタルツインを利用することにより、仮想空間に再現された、現実世界と同じ空間でのシミュレーションを行い、将来の故障や状況の変化を予測することができる。

イ：IoTなどによって実現できることである。

ウ：スマートグリッドによって実現できることである。

エ：トレーサビリティシステムなどによって実現できることである。

問 8 【解答エ】

マイナンバーとは、社会保障、税、災害対策の行政手続で必要とされるもので、国民一人ひとりがもつ12桁の個人番号である。したがって、マイナンバーを使用する行政手続として適切でないものは、「入国管理の分野における邦人の出入国管理」である。

4. 2 経営戦略(8)

エンジニアリングシステム

問 1 【解答エ】

CIM (Computer Integrated Manufacturing；コンピュータ統合生産システム) は、元々は、製造業などで、「製品の製造から販売までの情報を共有・管理して、生産性を高めるシステム」のことである。現在では経営管理システムも含めて、経営戦略から製品生産までを統合して管理するシステムとして位置付けられている。

ア：VCM (Value Chain Management；バリューチェーンマネジメント) に関する説明である。

イ：SCM (Supply Chain Management；供給連鎖管理) に関する説明である。

ウ：CRM (Customer Relationship Management；顧客関係管理) に関する説明である。

問 2 【解答ウ】

CAD (Computer Aided Design；コンピュータ支援設計) は、製品の設計に関する作業を支援するシステムである。「コンピュータを利用して設計や製図を行うこと」であり、コンピュータグラフィックスや形状モデリングなどの手法が利用される。

ア：CAI (Computer Assisted Instruction／Computer Aided Instruction) の説明である。

イ：CAM (Computer Aided Manufacturing) の説明である。

エ：ソフトウェア開発業務／部門の説明である。



### 問3 【解答ア】

コンカレントエンジニアリング（同時進行技術活動）は、いくつかの製造工程を同時並行して、製品の生産期間の短縮を図る考え方である。この考え方は、システム開発の各工程において、同時にできる作業を並行して進め、「開発期間の短縮」を図る手法としても用いられる。

### 問4 【解答ア】

・ジャストインタイム (JIT: Just In Time) 生産方式

：必要な物を、必要なときに、必要な量だけ生産する方式である。在庫を最小限に抑えられる生産方式である。(正解)

・セル生産方式

：1人又は数人の作業員が、最初から最後まででの全工程を担当する生産方式である。

・見込生産方式

：生産計画に基づき、見込み数量で生産する方式である。

・ロット生産方式

：ある数量（ロット）を、まとめて生産する方式である。

### 問5 【解答エ】

FMS (Flexible Manufacturing System; フレキシブル生産システム) は、資源の管理から工程の管理まで含めた製造工程を、統合・制御する自動生産システムである。

ア：HEMS (Home Energy Management System) に関する説明である。

イ：PDM (Product Data Management; 製品情報管理) に関する説明である。

ウ：CIM (Computer Integrated Manufacturing) に関する説明である。

### 問6 【解答イ】

センシング技術とは、センサを利用して温度、磁気、光、圧力などの様々な情報を検知・計測する技術である。センシング技術の活用事例としては、「工場の製造ラインに温度センサを設置して、常に製造に適した温度を維持できるように監視する」ことが挙げられる。

ア：BI (Business Intelligence) ツールの活用事例である。

ウ：グループウェアの活用事例である。

エ：ワークフローシステムの活用事例である。

### 問7 【解答ア】

計算手順は、次のとおりである。

- ① 製品Pを6個生産するために必要な部品Qの個数を求める。ただし、在庫が1個ある。  
部品Qの個数 $=6 \times 2 - 1 = 11$  (個)
- ② 製品Pを6個生産するために必要な部品Rの個数を求める。ただし、在庫が3個ある。  
部品Rの個数 $=$ 部品Qの個数 $\times 4 -$ 在庫 $=11 \times 4 - 3 =$ 「41」(個)

## 4.2 経営戦略(9)

e-ビジネス(電子商取引)

### 問1 【解答エ】

EC (Electronic Commerce；電子商取引) はe-ビジネスとも呼ばれ、IT (インターネット) を活用したビジネス全般を指している。つまり、「消費者向けや企業間の商取引を、インターネットなどの電子的なネットワークを活用して行うことである。」

ア：SFA (Sales Force Automation；営業支援システム) に関する説明である。

イ：ERP (Enterprise Resource Planning；企業資源計画) に関する説明である。

ウ：リテールサポートを支援するシステムに関する説明である。

### 問2 【解答ウ】

・B to C (Business to Consumer)

：企業と個人消費者間で行われるEC (Electronic Commerce；電子商取引) である。

・CDN (Content Delivery Network)

：インターネット上のWebサーバが提供するコンテンツのキャッシュサーバ (CDNサーバ) を分散配置し、ユーザに最も近い経路のCDNサーバからコンテンツを配信する仕組みである。

・EDI (Electronic Data Interchange；電子データ交換)

：ECなどにおけるデータ形式、フォーマットを統一し、企業間で見積書、受発注、決済などを電子的にやり取りする仕組みである。(正解)

・SNS (Social Networking Service；ソーシャルネットワーキングサービス)

：個人向けのコミュニティ型のWebサイトで、元々は友人とのコミュニケーションなどの場を提供する会員制サービスのことである。最近では、企業同士の情報交換の場や、従業員同士あるいは企業と顧客のコミュニケーションの場としても活用されている。

### 問3 【解答イ】

電子商取引 (e-ビジネス) は、取引対象 (消費者 (C)：Consumer、企業 (B)：Business、従業員 (e)：Employee、政府/地方自治体 (G)：Government) によって分類される。例えば、企業と消費者間の電子商取引を「B to C」(空欄a)、企業間の電子商取引を「B to B」(空欄b)、企業と政府・自治体間の電子商取引を「B to G」(空欄c) という。

### 問4 【解答エ】

ロングテールとは、多品種の商品を取りそろえることで、一つひとつの販売数が少なくても全体として売上を大きくするという手法・考え方である。売り場をほとんど必要としないインターネット販売では、販売に必要なコストが少ないので、販売数が少なくても商品の売上を合計すれば、売れ筋商品よりも大きくなることもあり、利益を上げることができる。したがって、ロングテールの考え方に基づく販売形態とは、「販売見込み数がかなり少ない商品を幅広く取扱い、インターネットで販売する」ことである。

### 問5 【解答エ】

アカウントアグリゲーションとは、預金者が異なる金融機関に保有している複数口座の情報を、まとめて表示することである。

ア：オプティンで実現できることである。

イ：エスクローサービスで実現できることである。

ウ：eKYC (electronic Know Your Customer) で実現できることである。

## 問6 【解答エ】

2017年に改正された資金決済法では仮想通貨では以下のように定義している。

・物品を購入し、若しくは借り受け、又は役務の提供を受ける場合に、これらの代価の弁済のために不特定の者に対して使用することができ、かつ、不特定の者を相手方として購入及び売却を行うことができる財産的価値であって、電子情報処理組織を用いて移転することができるもの。

・不特定の者を相手方として前号に掲げるものと相互に交換を行うことができる財産的価値であって、電子情報処理組織を用いて移転することができるもの。

したがって、選沢枝エの「不特定の者に対する代金の支払に使用可能で、電子的に記録・移転でき、法定通貨やプリペイドカードではない財産的価値である。」が適切である。

ア：仮想通貨交換業では、外国の事業者であっても内閣総理大臣の登録を受けた者でなければ行っているとはならないと定められている。

イ：海外への送金でも銀行を經由する必要はない。

ウ：ゲーム内通貨の説明で、仮想通貨の流通はオンラインゲーム内だけに限定されていない。

## 4.2 経営戦略(10)

民生機器／産業機器

## 問1 【解答ウ】

組み込みソフトウェアは、家電製品や産業機械などに組み込まれて、機器を制御する組み込みシステムで利用されるソフトウェアである。したがって、解答群の中では、「ディジタルカメラの焦点を自動的に合わせるソフトウェア」が該当する。

## 問2 【解答イ】

組み込みシステムは、家電製品や産業機械などに組み込まれて、機器を制御するシステムである。組み込みシステムは、その性質上、センサから受け取った信号などに対して即時に対応するため、リアルタイム性（「定められた時間内で、一定の処理を完了する性質」）が求められる。

ア：可用性に関する説明である。

ウ：効率性に関する説明である。

エ：信頼性に関する説明である。

## 問3 【解答ア】

・コネクテッドカー

：ICT端末としての機能を有する自動車のこと、車両状態や周囲の道路状況などのデータを自動車に搭載しているセンサにより取得し、ネットワークを介して集積・分析することで、緊急通報システムや盗難車両システムなどのサービスを生み出している。（正解）

・スマートファクトリ

：「自ら考える賢い工場」のことで、IoTにより製造管理システムと産業機械やロボット同士を、ネットワークを介して連携させることで実現することである。

・ドローン

：広義には、無人で遠隔操作や自動制御によって飛行できる航空機の総称である。狭義には、小型で複数の羽がついていて自立飛行できるマルチコプタのことである。

- ・ワイヤレス給電

：給電ケーブルが不要で充電台に置いたり、充電スタンドに近づけたりすることで給電を行う技術である。

#### 問4 【解答ア】

- ・インダストリ 4.0

：IoTの活用により、生産現場における製造機器や部品などがすべてネットワークを介して接続され、ダイナミックに最適制御されることにより生産効率を飛躍的に高めることができる」と期待されている“第四次産業革命”のことである。（正解）

- ・組み込みシステム

：特定の機能を実現するために家電製品や機械に組み込まれるコンピュータシステムのことで、現在生産されているほとんどの家電製品や機械に組み込まれている。

- ・ファームウェア

：ハードウェアにROMなどの形で組み込まれ、ハードウェアを制御するソフトウェアのことである。

- ・ロボティクス

：ロボットに関する学問や研究のことで、動作や制御に関する技術及び人工知能などが該当する。

#### 問5 【解答ウ】

ファームウェアは、「家電製品などのハードウェアを制御するために、あらかじめROMなどに書き込まれているソフトウェア」である。ハードウェアと密接な関係をもつソフトウェアであり、元々は、書き換えられない（変わらない）ソフトウェアという意味でfirmwareと名付けられた。しかし、最近ではフラッシュメモリに格納された、書換え可能なファームウェアも使用される。

ア：シエアウェアに関する説明である。

イ：フリーウェアに関する説明である。

エ：ミドルウェアに関する説明である。

#### 問6 【解答イ】

ドローンとは、無人で遠隔操作や自動制御によって飛行できる航空機（広義）や小型で複数の羽がついていて自立飛行ができるマルチコプタのこと（狭義）である。ドローンには、GPSや各種センサを搭載していることが特徴で、測量、宅配、農業、災害調査、セキュリティなどビジネス面での活用が期待されている。

角速度、傾き、振動の検出に「ジャイロセンサ」を使用し、ジャイロセンサで測定された傾きをもとに自律的に「機体の水平姿勢」の制御を行っている。

・気圧センサ：飛行高度および飛行速度の制御に使用される。

・地磁気センサ：飛行方向の制御に使用される。

・超音波センサ：障害物の検知に使用される。

#### 問7 【解答エ】

情報家電には、組み込みシステム向けに作られた専用の組み込みOSを採用するのが一般的である。しかし、PCなどで利用されている汎用的なOSを流用することで、「ソフトウェアの開発期間の短縮」を図ることもある。

ア：PC用OSは一般にも広く知られているため、組み込みOSよりも外部からの攻撃対象となるリスクが高い。

- イ：PC用OSの用途は様々で処理が複雑なため、稼働に必要なメモリは組込みOSよりも多くなる。  
 ウ：PC用OSの用途は様々で処理が複雑なため、組込みOSよりも処理スピードは遅くなる。

### 4.3 システム戦略(1)

#### 情報システム戦略

#### 問1 【解答イ】

情報システム戦略とは、企業経営において“情報システムをどのように活用して経営戦略・事業戦略を効果的に進めるか”という、情報システムの指針・方針のことである。情報システム戦略の立案では、経営目的を実現する情報システムを企画するための最適化の目標を、経営戦略との整合性を考慮して策定する必要がある。

#### 問2 【解答イ】

エンタープライズアーキテクチャ (EA: Enterprise Architecture) は、組織全体の業務とシステムを、業務体系 (ビジネスアーキテクチャ)、データ体系 (データアーキテクチャ)、適用処理体系 (アプリケーションアーキテクチャ)、技術体系 (テクノロジアーキテクチャ) に分けて分析・モデル化し、将来のあるべき姿を設定して、全体最適化を行うためのフレームワークである。

ア：ディザスタリカバリの説明である。

ウ：EPR (Business Process Reengineering; ビジネスプロセスリエンジニアリング) の説明である。

エ：SOA (Service Oriented Architecture; サービス指向アーキテクチャ) の説明である。

#### 問3 【解答イ】

・SEO (Search Engine Optimization; サーチェンジンの最適化)

：利用者が検索エンジンを利用してキーワード検索を行ったとき、自社のWebサイトが検索結果の上位に表示されるようにする技術・サービスである。

・エンタープライズサーチ

：企業内に分散して蓄積された情報を統合し、検索できるようにしたシステムである。(正解)

・データマイニング

：データベースに蓄積されている大量の生データから、統計やパターン認識などを用いて、規則性や関係性を導き出すことである。

・ブロッックチェーン

：仮想通貨などで用いられる、分散型ネットワークを利用した台帳である。取引記録 (データ) に特定ブロッックのハッシュ値を加えたブロッック同士をつないで、ネットワーク上のコンピュータが分散して保有することで、取引記録の改ざん防止の効果が期待できる。

#### 問4 【解答イ】

レガシーシステムは、技術面での老朽化、システムの複雑化・ブラックボックス化などの問題があるシステムのことである。最新技術に対応できない、保守コストの負担が大きいなどの問題が生じるため、刷新すべきである。

ア：サイバーフィジカルシステムの特徴である。

ウ：シンクライアントシステムの特徴である。

エ：デュプレックスシステムの特徴である。

#### 問 5 【解答ア】

SoR (Systems of Record) は、旧来からある基幹系システムなどを指す言葉で、ビジネス上のデータを正確に記録することを主眼とするシステムのことである。この概念は、ITシステムをその目的で分類したものである。

イ：SoE (Systems of Engagement) の説明である。

ウ：フロントエンドの説明である。

エ：バックエンドの説明である。

#### 問 6 【解答イ】

情報リテラシとは、業務遂行のために、コンピュータやアプリケーションソフトウェアなどの情報技術を活用し、情報を検索・整理・分析・発信できる能力のことである。したがって、営業担当者の情報リテラシを向上させるための研修内容として最も適切なものは、「情報システムに保存されている過去の営業実績データを分析して業務に活用する方法」である。

### 4.3 システム戦略(2)

業務プロセスの調査・分析

#### 問 1 【解答ウ】

業務プロセスとは、対象となる業務の流れのことである。したがって、業務プロセスモデルは、「システム化の対象となるビジネスの活動やデータの流れを明示したもの」となる。

ア：ソフトウェア詳細設計書に関する説明である。

イ：RFP (Request For Proposal；提案依頼書) に関する説明である。

エ：プロジェクト憲章に関する説明である。

#### 問 2 【解答エ】

・データクレンジング、データクレンジング

：フィールド名やデータの表記方法を統一したり、古いデータや不要なデータを削除したりして、データベースを最適な状態にする処理のことである。

・データマイニング

：データベースに蓄積されている大量の生データから、統計やパターン認識などを用いて、規則性や関係性を導き出す技術である。

・データモデリング

：データベース設計や業務プロセスの調査・分析で、データ構造をモデル化することである。

業務プロセスの調査・分析では、対象となる業務を、実体 (エンティティ；Entity) と実体間の関連 (リレーションシップ；Relationship) で表すE-R図などを作成する。(正解)

#### 問 3 【解答エ】

DFD (Data Flow Diagram) は、「データの流れに着目し、業務のデータの流れと処理の関係を表記する」業務プロセスモデル (ビジネスプロセスモデル) である。

ア：状態遷移図に関する記述である。

イ：E-R図に関する記述である。

ウ：UML (Unified Modeling Language) によるクラス図に関する記述である。

## 問4 【解答イ】

BPR (Business Process Reengineering ; ビジネスプロセスリエンジニアリング) は、従来の業務プロセスを根本的に見直し、業務の流れや個々の業務内容を改善して業務プロセスを再構築することである。つまり、「企業の業務効率や生産性を改善するために、既存の組織やビジネスルールを全面的に見直して、再構築すること」である。

ア：SCM (Supply Chain Management ; 供給連鎖管理) に関する説明である。

ウ：バランスコアカード (BSC : Balanced ScoreCard) に関する説明である。

エ：CRM (Customer Relationship Management ; 顧客関係管理) に関する説明である。

## 問5 【解答ウ】

情報システムの開発の際に作成する業務モデルとは、情報システムのあるべき姿を明確にするために、業務調査によって把握した「システム開発の対象である業務の仕組みやプロセス」を視覚的に表したモデルのことである。

## 問6 【解答ウ】

BPM (Business Process Management) の考えとは、製品やサービスの品質向上を図るために業務の実行結果などから業務プロセス自体を見直し、継続的に改善することである。

ア：BI (Business Intelligence) の考え方である。データウェアハウス、意思決定支援システム (DSS)、オンライン分析処理 (OLAP) システム、データマイニングなどが含まれる。

イ：ERP (Enterprise Resource Planning ; 企業資源計画) の考え方である。

エ：分業化の考え方である。

## 問7 【解答ウ】

ア：“顧客”と“注文”は1対多の関係なので、1人の顧客は複数回注文できる。このとき、同じ商品注文してもよいので、1人の顧客が同じ商品を2回以上注文することはできる。

イ：“明細”と“商品”は多対1の関係なので、同じ商品が複数回注文できる。このとき、注文した顧客が違ってもよいので、同じ商品を複数の顧客が注文することはできる。

ウ：“顧客”と“注文”は1対多の関係なので、1回の注文は必ず1人の顧客のものである。したがって、複数の顧客が一度に注文することはできない。(正解)

エ：“注文”と“明細”は1対多の関係なので、1回の注文には複数の明細が対応する。また、

“明細”と“商品”は多対1の関係なので、一つの明細には一つの商品が対応する。したがって、複数の明細がある1回の注文では、複数の商品を一度に注文することができる。

## 4.3 システム戦略(3)

業務改善

## 問1 【解答ア】

・BPMN (Business Process Management and Notation)

：業務改善において用いられる、業務プロセスの流れをわかりやすく表現するモデリング表記法である。OMG (Object Management Group) によって標準化されている。(正解)

・BPO (Business Process Outsourcing)

：自社の業務プロセスを、外部に委託することである。

・PDCA

：Plan→Do→Check→Actという流れのことであり、この一つのサイクルをPDCAサイクルという。業務改善におけるPDCAサイクルでは、現行業務を分析・モデル化して、問題発見と業務改善（Act）、新業務モデルの設計（Plan）、新業務モデルの実行（Do）、モニタリング・評価（Check）の流れで管理する。

・SNS (Social Networking Service；ソーシャルネットワーキングサービス)

：コミュニティ型のWebサイトで、元々は友人とのコミュニケーションなどの場を提供する会員制サービスのことである。最近では、企業同士の情報交換の場や、従業員同士あるいは企業と顧客のコミュニケーションの場としても活用されている。

問2 【解答エ】

グループウェアは、コンピュータとネットワークを使って社内の情報を共有することで、グループや組織の共同作業を支援し、業務効率を高めるソフトウェアである。電子掲示板などのコミュニケーションツールを利用した「従業員間のコミュニケーションの円滑化」や、スケジュール管理機能を利用した「組織内のリアルタイムなスケジュール共有」が期待できる。

したがって、グループウェアを導入したときに期待できることを全て挙げたものは、「c，d」である。

問3 【解答ウ】

・BYOD (Bring Your Own Device)

：従業員が個人的に所有するPCやスマートフォンなどの情報端末を職場に持ち込み、業務に使用することである。

・M to M (Machine to Machine)

：機械同士が、通信ネットワークを通じて情報をやり取りすることで、人間を介さずに自律的に協調して管理・制御を行うことである。

・RPA (Robotic Process Automation)

：これまで人間が行ってきた定型的なPC操作をソフトウェアのロボットにより自動化することであり、少人数でも生産性の向上を図ろうとする取組みのことである。（正解）

・テレワーク

：ICT（情報通信技術）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことで、テレワークの形態として、在宅勤務やモバイルワーク、サテライトオフィス勤務やSOHO（Small Office/Home Office）などがある。

問4 【解答ア】

ソーシャルネットワーキングサービス（SNS：Social Networking Service）とは、個人向けのコミュニケーション型のWebサイトで、元々は友人とのコミュニケーションなどの場を提供する会員制サービスである。最近では、企業同士の情報交換の場や、従業員同士あるいは企業と顧客のコミュニケーションの場としても活用されている。したがって、ソーシャルネットワーキングサービスの利用事例は、「登録会員相互のコミュニケーション及び企業と登録会員のコミュニケーションの場や話題を提供することで、顧客のブランドロイヤリティを向上させる」ことである。

イ：グループウェアの利用事例である。

ウ：エスクローの利用事例である。

エ：SaaS（Software as a Service）の利用事例である。



## 問5 【解答エ】

〔改善前〕と〔改善後〕の情報から、作業工数の削減率を求める。

① 〔改善前〕の情報から、改善前の作業工数を求める。

$$\begin{aligned} \text{改善前の作業工数} &= (\text{A作業の要員数} \times \text{A作業の作業時間}) \\ &\quad + (\text{B作業の要員数} \times \text{B作業の作業時間}) \\ &\quad + (\text{C作業の要員数} \times \text{C作業の作業時間}) \\ &= 10人 \times 3時間 + 10人 \times 3時間 + 10人 \times 4時間 \\ &= 30人時 + 30人時 + 40人時 \\ &= 100人時 \end{aligned}$$

② 〔改善後〕の情報から、改善後の作業工数を求める。

$$\begin{aligned} \text{改善後の作業工数} &= ((\text{A作業の要員数} \div 2) \times \text{A作業の作業時間}) \\ &\quad + (\text{B作業の要員数} \times \text{B作業の作業時間}) \\ &\quad + (\text{C作業の要員数} \times (\text{C作業の作業時間} \div 2)) \\ &= (10人 \div 2) \times 3時間 + 10人 \times 3時間 + 10人 \times (4時間 \div 2) \\ &= 15人時 + 30人時 + 20人時 \\ &= 65人時 \\ \text{③ 改善前と改善後で作業工数が何\%削減されるか計算する。} \\ \text{作業工数の削減率} &= (\text{改善前の作業工数} - \text{改善後の作業工数}) \div \text{改善前の作業工数} \times 100 \\ &= (100人時 - 65人時) \div 100人時 \times 100 \\ &= 「35」\% \end{aligned}$$

## 4.3 システム戦略(4)

ソリューションビジネス

## 問1 【解答ウ】

SI (System Integration; システムインテグレーション) は、「情報システムの企画・構築・運用などの業務を一括して請け負う」ビジネス形態のことである。SIを行う事業者をSI事業者またはシステムインテグレータ (SI: System Integrator) という。

ア: BPR (Business Process Reengineering; ビジネスプロセスリエンジニアリング) に関する説明である。

イ: アウトソーシングに関する説明である。

エ: SaaS (Software as a Service) に関する説明である。

## 問2 【解答ア】

- ・ASP (Application Service Provider)
  - ： ネットワーク経由で、ユーザにサーバ上のアプリケーションソフトウェアをサービスとして提供する形態、または事業者である。(正解)
- ・BPO (Business Process Outsourcing)
  - ： 自社の業務プロセスを、外部に委託することである。
- ・ISP (Internet Service Provider; インターネット接続サービス事業者)
  - ： インターネットへの接続サービスを提供する事業者である。
- ・SI (System Integrator; システムインテグレータ)
  - ： 情報システムの企画・構築・運用などの業務を一括して請け負う「システムインテグレーション (SI: System Integration)」を行う事業者である。

### 問 3 【解答エ】

- ・ RPA (Robotic Process Automation)  
：人間が行っていた事務処理系の業務を、ロボット (PCのソフトウェア) が代替して自動的に行うことである。
- ・ オンプレミス  
：自社の施設内にネットワーク機器やサーバ機器を設置して運用することである。
- ・ シェアリングエコノミー  
：個人や企業が保有している遊休資産 (稼働していない資産) の貸出しを仲介するサービスのことである
- ・ ハウジング  
：通信事業者の通信施設内に、利用者が所有するネットワーク機器やサーバを設置して使用する (設置場所を“間借り”する) 形態のサービスである。(正解)

### 問 4 【解答ア】

- ・ クラウドコンピューティング  
：ネットワークを介して、コンピュータの資源 (データやソフトウェアなど) を提供することによって、利用者がスケラビリティ (拡張性) やアベイラビリティ (可用性) の高いサービスを容易に受けられる形態である。(正解)
- ・ クラスタリング  
：複数のコンピュータを連携させて、全体を1台の高性能のコンピュータであるかのように利用することである。
- ・ シンククライアントシステム  
：シンククライアント端末を利用した、クライアントサーバシステムである。
- ・ フォールトトレラントシステム  
：システムを構成する装置を多重化 (予備を用意) すること、装置に障害が発生しても停止させないようにするシステムである。

### 問 5 【解答エ】

SOA (Service Oriented Architecture ; サービス指向アーキテクチャ) は、会計業務や販売管理業務など、業務 (サービス) 単位に合わせて構築・整理された機能 (ソフトウェア部品) を相互に連携させて、拡張性と適合性に優れた情報システムを構築するサービス形態又は考え方である。したがって、SOAを採用するメリットは、「柔軟性のあるシステム開発が可能となる」ことである。

### 問 6 【解答ア】

SaaS (Software as a Service) は、ネットワーク経由で、ユーザにソフトウェアの機能をサービスとして提供し、使用料を課金する形態である。ソフトウェアの必要な機能だけを、必要ときに利用することができるサービス形態である。したがって、SaaSを利用した事例に該当するのは、「サービス事業者から提供される購買業務アプリケーションのうち、自社で利用したい機能だけをインターネット経由で利用する」である。

イ：PaaS (Platform as a Service) を利用した事例である。

ウ：ホスティングサービスを利用した事例である。

エ：ハウジングサービスを利用した事例である。

## 問7 【解答ウ】

BPO (Business Process Outsourcing) は、特定部門の業務プロセス全体を、外部に委託するアウトソーシングである。具体的には、「自社の管理部門やコールセンタなど特定部門の業務プロセス全般を、業務システムの運用などとともに、外部の専門業者に委託することである。」

ア：ホスティングに関する説明である。

イ：ASP (Application Service Provider) などに関する説明である。

エ：派遣労働者を活用したソフトウェア開発費用低減策に関する説明である。

## 4.3 システム戦略(5)

システム企画

## 問1 【解答イ】

- ・開発プロセス
  - ：顧客のニーズに合ったシステム、ソフトウェア製品又はサービスを開発するプロセスである。
- ・企画プロセス
  - ：経営・事業の目的、目標を達成するために必要なシステムに関する要件の集合とシステム化の方針、及び、システムを実現するための実施計画を得るプロセスである。システム化構想の立案、システム化計画の立案などが行われる。(正解)
- ・保守プロセス
  - ：納入されたシステム及びソフトウェア製品に対して費用対効果が高い支援を提供するプロセスである。
- ・要件定義プロセス
  - ：定義された環境において、利用者及び他の利害関係者が必要とするサービスを提供できるシステムに対する要件を定義するプロセスである。利害関係者の種類・ニーズ・要望の識別、分析などが行われる。

## 問2 【解答イ】

企画プロセスは、経営・事業の目的、目標を達成するために必要なシステムに関する要件の集合とシステム化の方針、及び、システムを実現するための実施計画を得るプロセスである。企画プロセスでは、システム化構想の立案、システム化計画の立案などが行われる。

また、要件定義プロセスは、定義された環境において、利用者及び他の利害関係者が必要とするサービスを提供できるシステムに関する要件を定義するプロセスである。要件定義プロセスでは、利害関係者・要求の識別、分析などが行われる。

したがって、企画プロセス及び要件定義プロセスで行うことの組合せとして適切なものは、「イ」である。

## 問3 【解答イ】

システム開発における、委託先の選定に関する手順は、次のようになる。

- (1) RFP (Request For Proposal；提案依頼書) の提示 …… a  
委託先候補のベンダに対して、提案書 (提案内容) の提出を依頼する。
- (2) 提案書の評価 …… d  
委託先候補のベンダが提出した提案書 (提案内容)、見積書 (イニシャルコスト、ランニングコストなどの費用) を、提案評価基準で評価する。

(3) 委託先の決定 …… c

提案評価の結果により、委託先のベンダを選定する。

(4) 委託契約の締結 …… b

発注元と委託先の役割、責任分担などを、文書で相互に確認し、契約を結ぶ。

したがって、システム開発における、委託先の選定に関する手順としては、「a→d→c→b」が適切である。

#### 問 4 【解答イ】

・RAD (Rapid Application Development；高速アプリケーション開発)

：少数精鋭のチームがCASEツールを活用して、短期間でシステム開発を行う手法である。

・RFI (Request For Information；情報提供依頼書)

：調達先候補に対して、システム化の目的や業務内容などを提示し、調達先候補の類似システムの開発経験や最新情報技術などの情報提供を依頼する文書である。(正解)

・RFP (Request For Proposal；提案依頼書)

：調達先候補に、提案書(提案内容)の提出を依頼する文書である。取引契約内容の不透明さを取り除くために、システムの基本方針、業務システムで実現すべき機能、調達条件などを記載する。

・RPA (Robotic Process Automation)

：人間が行っていた事務処理系の業務を、ロボット(PCのソフトウェア)が代替して自動的に行うことである。

#### 問 5 【解答エ】

企画プロセスにおけるシステム化計画の立案で実施される作業は、次のとおりである。

- 1) システム化基本方針(基本要件)の確認
  - 2) システムで実現すべき課題の定義
  - 3) 業務機能と組織のモデル化
  - 4) システム化機能を実現するアーキテクチャと付帯機能などに関する基本方針の策定
  - 5) システムが提供するサービスレベルと品質に関する基本方針の明確化
  - 6) プロジェクトの品質、コスト、納期の目標値と優先順位の設定(エ)
  - 7) ここまでの前提条件で、技術的・経済的に実現可能であるかの検討
  - 8) 全体開発スケジュールの作成、システム選定方針の策定、費用(コスト)とシステム投資対効果の予測、プロジェクト推進体制の策定、経営戦略/情報戦略やシステム化構想との整合性の検証
  - 9) システム化計画及びプロジェクト計画の文書化、承認
- ア：開発プロセスで実施される作業である。  
イ：要件定義プロセスで実施される作業である。  
ウ：要件定義後の調達において実施される作業である。

#### 問 6 【解答エ】

要件定義プロセスで定義する要件は、業務要件、機能要件、非機能要件の三つに分類される。

- ・業務要件
  - ：業務内容(手順、組織など)や業務特性など、業務上実現すべき要件 …… a
- ・機能要件
  - ：業務要件を実現するために必要な、システム機能の要件 …… d

・非機能要件

：業務要件を実現するために必要な、機能要件以外の要件（性能、信頼性、可用性、拡張性、使用性、保守性、移行性、セキュリティ、システム環境・エロロジーなど） … b, c  
したがって、機能要件に該当するものは「d」である。

問 7 【解答イ】

A社～D社の各評価値に重み付けをし、その合計を計算すると次のようになる。

$$A社：4 \times 4 + 3 \times 3 + 2 \times 3 = 31$$

$$B社：3 \times 4 + 2 \times 3 + 5 \times 3 = 33$$

$$C社：2 \times 4 + 5 \times 3 + 3 \times 3 = 32$$

$$D社：2 \times 4 + 4 \times 3 + 4 \times 3 = 32$$

したがって、合計が最高点（33）の「B社」が、調達先として選定される。



---

## IT パスポート試験問題集

---

発行日 2008 年 11 月 1 日 初 版 第 1 刷  
2020 年 12 月 15 日 第 8 版 第 1 刷  
著 者 インフォテック・サーブ教育研究会  
発行者 木田 徳彦  
発行所 株式会社 インフォテック・サーブ  
〒101-0052  
東京都千代田区神田小川町 1-8-5 金石舎ビル 7F  
TEL 03 (5289) 9321  
FAX 03 (5289) 9320  
URL <http://www.infotech-s.co.jp>

©インフォテック・サーブ 2020 ISBN978-4-909963-16-1

---

無断複写・複製、転載は著作権の侵害となります。

